

科学技術の研究開発を支援する矢崎科学技術振興記念財団（東京都港区）は、2023年度の研究助成金受領者15人を決定し、東京都内で贈呈式を開いた。

同研究助成は、材料・デバイス、環境・バイオサイエンス、エネルギー・情報通信の3分野を対象領域に公募。独創的で科学技術の発展に大きな貢献が見込める研究として、今回、「一般研究助成（200万円）」5件、「奨励研究助成（100万円）」10件を決めた。

中部地方では、一般研究助成で名古屋大学大学院工学研究科情報・通信工学専攻准教授の森洋二郎氏のデータセンターの省電力化を図る「データセンターに適するペタビット超級光スวิตチネットワーキング技術

の創出」を選定。奨励研究助成で同工学研究科物質科の「ケミカルリサイクルを加速する高分子の新規熱分解シミュレーション手法の開発」が選ばれた。

別研究員PDの石田崇人氏の「ケミカルリサイクルを加速する高分子の新規熱分解シミュレーション手法の開発」が選ばれた。

23年度の研究助成金 23年度の助成受領者15人決定

矢崎科学技術振興記念財団が贈呈式



東京都内で贈呈式を開いた

また、過去の研究助成のうち、優れた業績を上げた研究者に贈る「矢崎学術賞」に3人を選出した。

同財団は、1982年に矢崎総業（本社東京都港区）の創立40周年を記念して発足。研究助成金の贈呈は今回で41回目となる。

同財団の佐藤慎一理事長は「この助成を一つのステップとして大きな成果をもたらし、世の中を変えていく力になることを期待している」とあいさつ。矢崎裕彦最高顧問（矢崎総業名誉会長）は「研究を押し進め、世界に貢献していただければ」と祝辞を述べた。